

# リンパ節郭清を伴う乳癌術後患者が退院後に抱える疑問や不安の実態調査

—半構成面接法を用いたインタビューを通して—

キーワード 乳癌 リンパ節郭清 指導

B棟6階 ○村尾彩 西岡麻奈 椋本健矢

## I. はじめに

A病院乳腺外科病棟では、リンパ節郭清を施行した乳癌術後患者に対して、独自に作成したパンフレットを使用しリンパ浮腫予防を目的とした指導を行っている。しかし、入院中にリンパ浮腫の予防的指導を行っていても実際に自宅での活用ができておらず、内容把握できていないことが多いと外来看護師より指摘があった。私たちはパンフレットを用いて指導するにあたり、どのような指導方法を行えば患者の背景を踏まえた個別的な指導を行うことができるのか、退院後も患者のリンパ浮腫予防行動の継続性を維持するためにはどのような工夫が必要なのかと疑問を抱き、その解決策が見出せず課題となっている。先行研究では、患者に退院後もリンパ浮腫予防行動を継続してもらい、パンフレットも継続的に活用してもらうためには、患者の背景を踏まえた個別的な指導を行うことが必要であると報告されているが、具体的に工夫する点について言及している報告はなかった。

そこで、今後リンパ節郭清を施行した乳癌術後患者が継続的なリンパ浮腫予防行動を獲得できることを目的とした、個別的な指導方法を見出していく第一段階として、退院後の患者にインタビューを行い患者の実態を調査し、看護師が指導を行ったことの不足点や、退院後の患者の不安に思っていること、困っていることを明らかにしたいと考えたため本研究を行うこととした。

## II. 目的

乳癌術後患者のリンパ浮腫予防の指導を行うにあたり、患者に退院後もリンパ浮腫予防

行動を継続してもらうための指導方法を見出していく第一段階として、看護師が指導を行ったことの不足点や、退院後に抱える患者の疑問や不安を明らかにする。

## III. 方法

### 1. 研究デザイン

質的記述研究デザイン

### 2. 研究対象者

研究対象者の状況をなるべく同等におくため、①初発乳癌に対してリンパ節郭清をした患者であり、②入院中・外来通院中に治療におけるリンパ浮腫以外の合併症（術後出血・創部感染・再発・転移）がみられない患者、③術後3年以内の患者という①～③の条件を満たし研究の同意を得られていることとした。

### 3. データ収集期間

データ収集期間は、10月～12月である。

### 4. データ収集方法

患者にインタビューガイド（表1）に沿って半構成面接法を用いたインタビューを行う。インタビュアーは研究者1名とし、記録方法は録音、筆記で行う。面接所要時間は30分～1時間、面接回数は1回である。面接場所は、プライバシーの保てる個室である。

### 5. データ分析方法

録音したデータを逐語録にし、解釈的現象分析を行う。

## IV. 倫理的配慮

本研究は所属施設の奈良県立医科大学附属病院看護研究倫理委員会の承認を得て行った。研究対象者には紙面と口頭で研究の趣旨を説明し、研究協力ならびに学会発表の同意書を

得た。参加は自由意思で不利益を受けないこと、途中放棄や面接内容を取り消すことができることを保障した。データは、研究以外に使用しないこと、個人や施設の匿名性に配慮すること、研究終了後に責任を持って消去、破棄することを保障した。

表 1.インタビューガイド (一部)

<p>インタビューガイド (研究者用)</p> <p>研究を受けていただきありがとうございます。研究者の〇〇です。30分から1時間ほどお話をきかせて頂きたいですか、途中で体調が悪くなるなどあればすぐにお知らせください。</p> <p>貴重な時間を頂き、貴重なお話を聞かせて頂くため、会話を確実に記録したいと考えています。以前に説明させて頂いたように、お話を録音させて頂いてもよろしいでしょうか？</p> <p>(Yes) それでは始めていきます。よろしく申し上げます。</p> <p>(No) では、お話を筆記で記録させて頂きます。それでは始めていきます。よろしく申し上げます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 現在の年齢はおいくつですか？</li> <li>2) 手術はいつ受けられましたか？</li> <li>3) 入院中にリンパ浮腫予防の方法について説明を受けられたと思いますが、そのときどのような印象をお受けになりましたか？覚えている範囲でお答えください。</li> <li>4) 退院後日常生活を送る上で不安・困っていることなどがあれば教えてください。</li> <li>5) 退院後説明を受けたリンパ浮腫予防の行動をとることができましたか？</li> <li>6) 退院後リンパ浮腫かなと思われるような症状を感じましたか？</li> <li>7) 入院中に聞いておけばよかったことや、知りたかった内容などはありますか？</li> </ol> <p>面接は以上です。お忙しい中、貴重なお時間をいただきありがとうございます。</p>
--

## V. 結果

インタビュー実施人数は 11 名であった。年代は、30 代 1 名、50 代 2 名、60 代 4 名、70 代 3 名、80 代 1 名であった。術後経過年数は、1 年未満が 3 名、1 年以上 2 年未満が 4 名、2 年以上 3 年未満が 4 名で、リンパ浮腫発症者は 0 名であった。録音 9 名、筆記 2 名で回答を得た。インタビュー時間は、1 人 5 分～1 時間であった。

インタビューの結果より 8 個のサブカテゴリーを導き、さらに<看護師の指導における不足点>、<実践できている日常生活におけるリンパ浮腫予防行動>、<サポート体制の欠如>の 3 個のカテゴリーを抽出した(表 2)。

以後、【】をカテゴリー、<>をサブカテゴリーとする。

【看護師の指導における不足点】は、<看護師の知識の差>、<看護師のリンパマッサージに対する教材の統一されていない活用方法>、<リンパ浮腫自体に対する不安>、<リンパ浮腫予防行動に対する不安>の 4 個のサブカテゴリーで構成された。<看護師の知識の差>では、「やっぱりベテランの人にきてもらって」<看護師のリンパマッサージに対する教材の統一されていない活用方法>では、「内容は忘れてることが多い」、「DVD 見てもやり方がよくわからない」、「わかりにくいからマッサージはしていない」、「パンフレットは覚えていない忘れた」<リンパ浮腫自体に対する不安>では、「最初リンパ浮腫が怖かった」「かぶれたりしないか」、<リンパ浮腫予防行動に対する不安>では、「傷が破れるんところがうかなって」、「最初は動かすことが怖かった」、「手を動かすのが怖かった」などの発言があった。

【実践できている日常生活におけるリンパ浮腫予防行動】は、<スキンケア>、<患肢の保護、運動>の 2 個のサブカテゴリーで構成された。<スキンケア>では、「怪我はしないように」、「夏でも長袖着たりしている」、「虫刺されはスプレーしたり長袖きたり気にしていた」、「包丁を使う時気をつけている」、「ガーデニングは手袋したり」<患肢の保護、運動>では、「腹式呼吸と肩回しはした」、「重たいものは持たないようにしている」、「毎日腕を伸ばしたり」、「右手(患肢)をかばってしまう、左手は使わないようにしている」などの発言があった。

【サポート体制の欠如】は、<家族>、<医療従事者>の 2 個のサブカテゴリーで構成された。<家族>では、「比べる人がいない」、「(1 人だと) 自分に甘くなる」、「(腕を動かすことは) 主人と毎日歩くので毎日運動をしていた」などの発言があった。

表 2. 患者が退院後に抱える疑問や不安

カテゴリー	サブカテゴリー	研究者対象者の発言
看護師の指導における 不足点	1.看護師の知識不足	・べてらんの人にきてもって
	2.看護師のリンパマッサージに対する 教材の統一されない活用方法	・内容は忘れてることが多い ・DVD 見てもやりかたがよくわからない ・わかりにくいからマッサージはしていない ・パンフレットは覚えていない 忘れた
	3.患者のリンパ浮腫に対するの不安	・最初リンパ浮腫が怖かった ・かぶれたりしないか
	4.患者のリンパ浮腫予防行動に対する 不安	・傷が破れるんと違うかなって ・最初は動かすことが怖かった ・手を動かすのが怖かった ・(リハビリ) 自分では怖い部分があった
実践できている日常生活におけるリンパ浮腫 予防行動	1.スキンケア	・怪我しないように ・夏でも長袖を着たりしている ・虫刺されはスプレーしたり、長袖きたり気にしていた ・包丁を使う時気を付けている ・ガーデニングは手袋をしたり
	2.患肢の保護、運動	・腹式呼吸と肩回しはした ・毎日腕を伸ばしたり ・手を挙げて寝たり、重たいものは持たないようにしている ・右手(患肢)をかばってしまう、左手は使わないようにしている
サポート体制の欠如	1.家族	・比べる人がいない ・一人だと自分に甘くなる ・(腕を動かすことは)主人と毎日歩くので毎日運動していた
	2.医療従事者	・一度誰かにやってもらったら ・病院にもっとサポートできる人がいたら ・リンパ浮腫の対応をされているところがあるなら紹介してほしい ・相談ものれるような体制はとってもらいたい

<医療従事者>では、「(入院中) 一度誰かにやってもらったら」、「病院にもっとサポートできる人がいたらね」、「リンパ浮腫の対応をされているところがあるなら紹介してほしい」、「相談ものれるような体制はとってもらいたい」などの発言があった。

## VI.考察

増島<sup>1)</sup>は、「現在これを行えばリンパ浮腫を100%予防できると明言できる方法はなく、完全な予防は難しいと言えます。しかし、リンパ浮腫の増悪因子をできるだけ避けて、リンパ液の流れを促すと考えられる日常生活を送り、リンパ浮腫に関する正しい知識を持って、むくみが生じたならば、より早い段階で浮腫に気づくことが、現段階で行えるリンパ浮腫の予防“的”行動として位置づけられると考えます。」と述べている。すなわち、看護師は患者にリンパ浮腫に対する正しい知識を提供し、退院後もリンパ浮腫の予防行動への意識を維持したまま生活できるように支援し

ていく必要がある。

患者へのインタビューを行うことでリンパ浮腫や予防行動に対して不安を抱えていたことや、リンパ浮腫予防行動の指導内容の理解に差があることから入院中の【看護師の指導における不足点】があることが明らかになった。原因として看護師の知識の差や看護師のリンパマッサージに対する教材の使用方法が統一されておらず、効果的な指導ができていないことが考えられる。そのため看護師の知識の向上と指導方法の統一が必要であると考えられる。梶原ら<sup>2)</sup>は、「看護師用のパンフレットは指導のバラツキを軽減し、標準的な指導につながるのではないかと考える。」と述べている。現在A病棟では患者用パンフレットのみを使用して指導を行っているが、看護師用のパンフレットを導入することで、看護師の知識の差・教材の使用方法の統一がされていない現状は改善される可能性があると考えられる。

さらに、増島<sup>3)</sup>は「患者に伝える内容の優先度を考えながら関わるには、患者自身のセ

ルフケ能力に着目することが大切です。」と述べており、指導の段階で患者のセルフケア能力を考慮していく必要がある。

患肢の保護や運動などに関してはパンフレットに記載してある内容を記憶できていたり、自分なりの対処方法を見出したりすることができていたことから、【実践できている日常生活におけるリンパ浮腫予防行動】もあることが分かった。これらは、患者の生活において身近なことであり大多数が実践できていると考えられる。その理由以外にも、看護師が指導の段階で患者が日常生活をイメージしやすいように説明し、日常生活とリンパ浮腫予防行動を結びつけることができていたことで、継続した実践に至ったのではないかと考える。Albert Bandura の理論の中で、安酸<sup>4)</sup>は「自己効力感という言葉をもっと高い能力と自信をもっている人は健康管理について自覚すればするほど積極的に自分自身の行動を変えようと試みる。」という意味合いで述べている。自己効力感を高めるようなリンパ浮腫予防指導を実践することで、患者は継続した予防行動を行うことができるようになると言える。

さらに、リンパ浮腫についてのサポート体制が充実していないという意見から【サポート体制の欠如】においても指導の段階で考慮すべき点であることが明らかになった。現在は入院中の指導の際のパンフレットには「外来に相談」の記載のみである。リンパ浮腫発症時に主治医に報告、相談することは必要であるが、まずは家族背景も視野に入れながら専門機関など、どのようなサポート体制があるのかを入院中に情報提供していく必要があると考える。たとえば、自施設におけるリンパ浮腫治療の現状を把握したり、リンパ浮腫に詳しい人材を探さなければならない。また自施設に役割を果たす部署や人材がない場合は、近隣施設の情報を収集し、患者・家族に情報提供していく必要があると考える。

乳癌術後患者は、その疾患と一生付き合っ

ていかなくはならず、それぞれに抱える思いや家族内での役割、社会的役割が違う。そのため、患者個々に合った指導方法をアセスメントしていく必要があると考えられる。看護師はそれらのことを念頭に置き、退院後の生活を見据えた指導を行っていく必要があると言える。

## VII. 結論

患者はリンパ浮腫そのものによる不安とリンパ浮腫予防行動に対する不安があることがわかった。

また、リンパ浮腫予防の指導を実施する際に看護師の指導方法に差があり、活用されている教材も統一されていないことがわかった。

さらに、退院後のサポート体制が欠如しているという状況もあると明らかになった。

今後は、個別的な指導を行うためには看護師の知識の向上や教材の使用法、サポート体制の情報提供について検討していく必要がある。

## VIII. 引用文献

- 1) 増島麻里子：病棟・外来から始めるリンパ浮腫予防指導, 医学書院, p92~93, 95, 2012.
- 2) 梶原真由美ら：婦人科がん術後患者のリンパ浮腫予防—セルフケア促進に向けたパンフレット(試案)作成と患者指導のあり方—, 日がん看会誌 27 巻 1 号, p71, 2013.
- 3) 前掲書 1) p 102
- 4) 安酸史子：ナースのための患者教育と健康教育, 医学書院, p141, 2002.

## IX. 参考文献

- 1) 増島麻里子：病棟・外来から始めるリンパ浮腫予防指導, 医学書院, 2012.
- 2) 増島麻里子：リンパ浮腫のケア—リンパ浮腫の予防的介入における看護の役割と課題—, 日本がん看護学会誌, 23 巻 (2), 59-63, 2009